

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

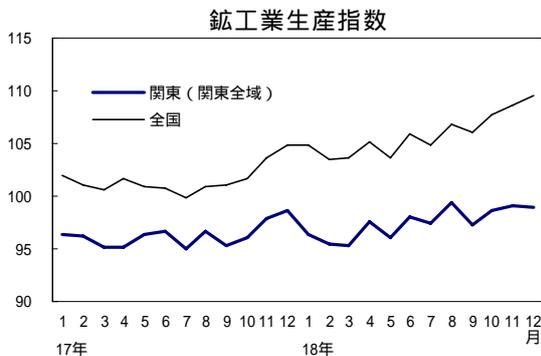
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 11 月)	今回 (平成 19 年 2 月)	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、発電機などに使用する蒸気タービンは好調であったものの、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が伸び悩んだため、減少している。化学は、フェノール・酸化プロピレンなどの樹脂原料が好調であったものの、合成洗剤が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、前期の反動で鋼船が不調であったものの、乗用車に使用する駆動電動加操縦部品が好調であったため、三四半期連続で増加している。情報通信機械は、携帯電話の新規モデルが好調であったため、増加している。電気機械は、自動車向けのモーターなどに使用するアルカリ蓄電池が減少したものの、半導体IC測定器が好調であったため、増加した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年12月の関東は速報値。

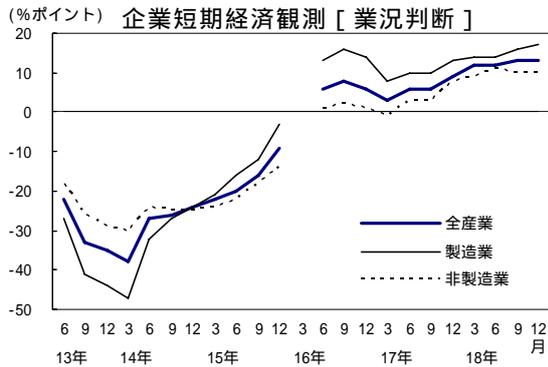
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	13.8	0.5	1.7	1.9	5.0
化学	13.7	3.3	1.0	1.0	0.5
輸送機械	11.3	1.3	3.9	4.0	5.2
情報通信機械	8.6	0.1	5.5	3.2	3.9
電気機械	7.9	0.0	3.4	4.1	0.5
鉱工業	100.0	0.7	0.9	1.2	1.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 10~12月期の化学の生産、出荷は、10月、11月確報値の平均より算出。在庫は、11月確報値。

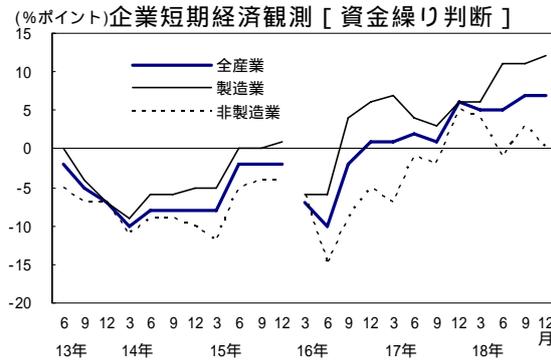
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



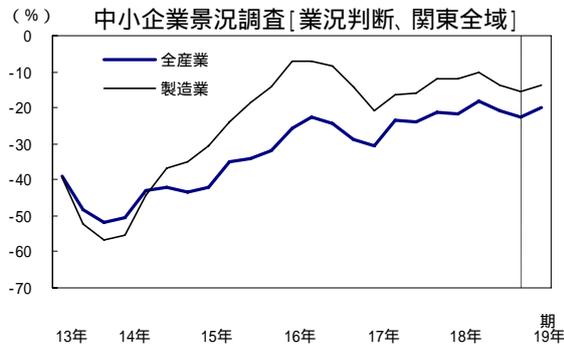
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「暖冬の影響は様々であるが、天然スキー場の降雪量が少ないため人工スキー場の来場者が多くなっており、活況を呈している。遠隔地からの客もかなり来ている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

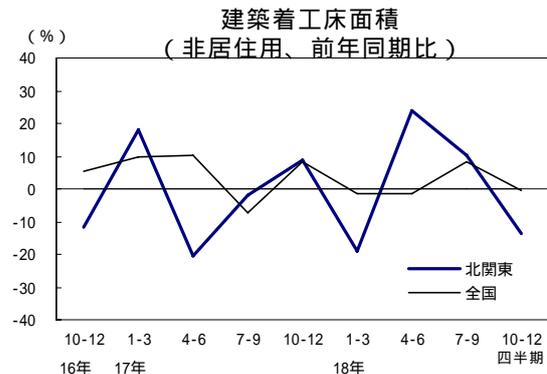
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	26.9	3.7(4.7)
製造業	12.4	32.2(8.5)
非製造業	99.0	32.2(0.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

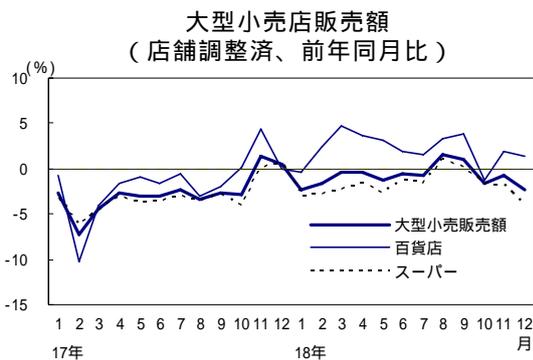
(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、移転改装効果の継続により、婦人靴、アクセサリー等の身の回り品や家庭用品に動きが見られたものの、気温が高めに推移したことから冬物衣料が伸び悩み、9か月ぶりに前年を下回った。11月は、中旬を除き気温が高めに推移し、冬物衣料が不振であったものの、身の回り品や歳末ギフト商戦の前倒しが好調であったため、前年を上回った。12月は、暖冬の影響により衣料品全般が苦戦したものの、催事・改装効果により、引き続き婦人靴やアクセサリー等の身の回り品が好調であったことから、2か月連続で前年を上回った。スーパーは、暖冬による衣料品の不振や、多雨による来店客数の減少等により、期を通じて苦戦し、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

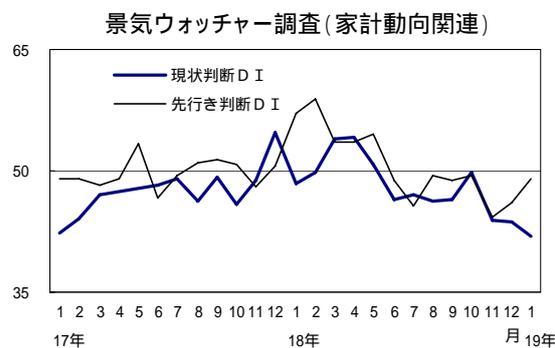
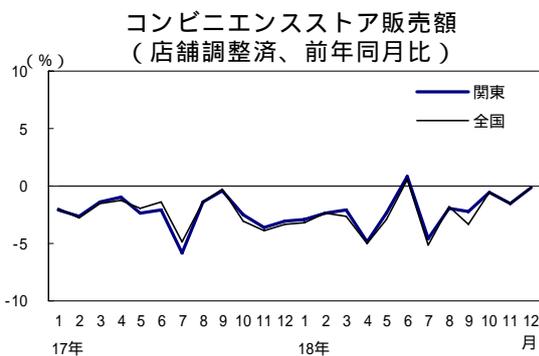
「年初めは好調であったが、10~20日までのランチタイムの来客数が極端に少なく、サラリーマンやOLは少しでも安い弁当やコンビニに流れている(高級レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.4	0.7	0.6	1.7
百貨店	2.2	2.9	2.7	0.7
スーパー	2.8	1.9	0.1	2.6
コンビニ	2.4	2.2	3.0	0.7
景気ウォッチャー	50.7	50.4	46.6	45.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

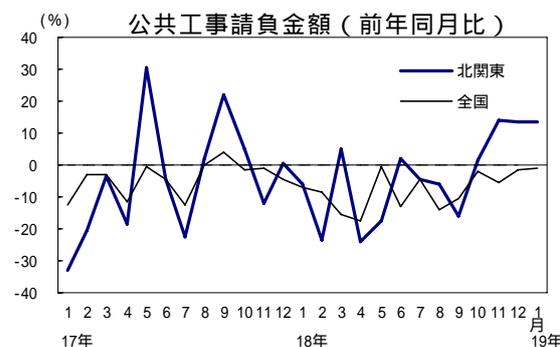
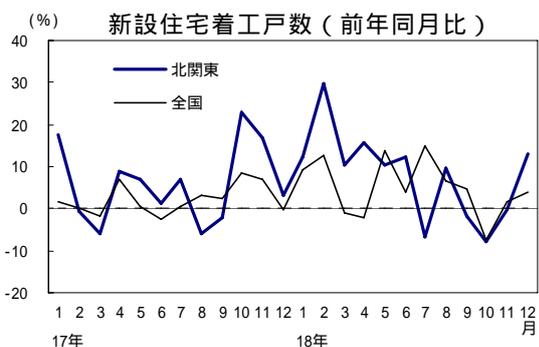
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

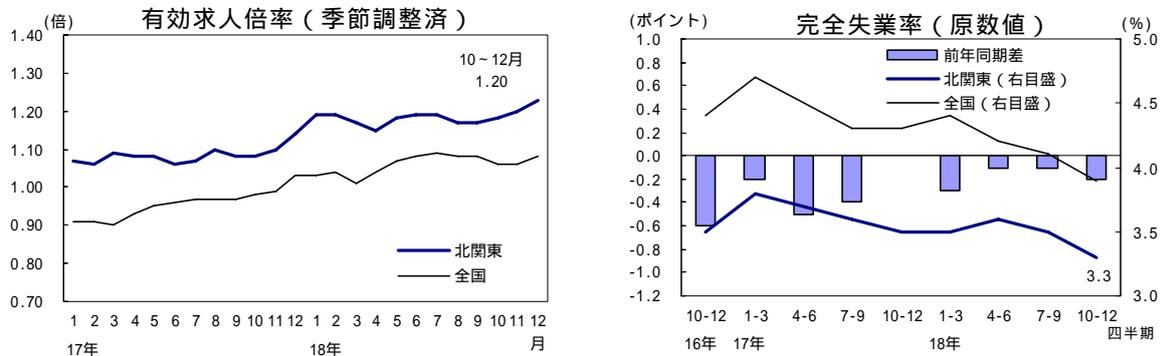


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

「年が明けても相変わらず人材派遣、業務請負の募集が多く、正社員募集は極端に少ない。周辺の大手企業では、春の新卒採用を控え、この時期は社員の募集はほとんどない(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数 (前年比)	184 11.5	153 7.8	157 4.7	191 20.9	60 5.3
負債総額 (前年比)	946 6.1	944 6.9	819 7.7	1,406 40.6	329 10.1



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 昨年の暮れより会員権の問い合わせ等が多く、会員権売買の動きが加速している。また、相場も上昇傾向である (ゴルフ場)

<先行き>

- ・ 団塊の世代がリタイア後に最もしたい事のアンケートで、第1位が国内旅行とあったが、それほど動きがない。孫の世話や息子、娘達への生活補助、社会保障のせい弱さによる将来への不安などで、レジャーに消費するより貯蓄傾向にある (観光型ホテル)

